

臨川寺庭園の調査

1969年度建造物研究室・平城宮跡発掘調査部の調査 5

臨川寺は京都市右京区嵯峨天龍寺北造路町にある。同寺は後醍醐天皇の皇子世良親王の邸宅（嵯峨川端殿）をのちに寺とし、元弘3年（1333）に夢窓国師の管領するところとなった。

今回、新設の市道が、その東端を高架で横切ることになり、京都市は1969年11・12月、岡崎文彬京都大学教授を主任とし、橋脚建設部分をふくむ約4aについて事前調査を実施した。本研究所もこれに協力し、牛川・宮沢・伊東・藤原・田中(哲)・佃が調査に参加した。

A・B・Cの3トレンチをもうけ、部分的に拡張して調査した結果、園池・石組の一部を確認した。Aトレンチ西半は、近年の削平をうけているが築山跡らしい。東半では、園路の側石とみられる石列と数個の庭石を検出した。Bトレンチでは、池と汀線の一部、および築山の南側と庭石を検出した。Cトレンチでは、池の続きと園路、南の池を検出した。南の池は、出土遺物からみて江戸時代に埋めたてて後、庭石を5個据えている。

出土遺物の大半を占めるのは瓦であって、軒丸瓦13点・軒平瓦12点・鬼瓦1点が出土した。いずれも13世紀後半から18世紀にかけてのものである。

今回の調査は、小規模なものではあったが、検出した庭園遺構が洛外図・拾遺都名所図会に描かれた臨川寺庭園とよく類似していることがわかった。天龍寺蔵臨川寺古図の一舗には園池らしいものと2つの建物を描いたものがある。語録にいう友雲庵・篩月軒等の庭園建築との関連をもふくめて、今後の調査が期待される。

(牛川喜幸)

20M